



テルモ株式会社
会社案内

今から100年前、第一次世界大戦の影響によって
輸入が途絶えた良質な体温計を国内で生産するために、
北里柴三郎博士をはじめとした医師らが発起人となって
テルモは設立されました。

当時の設立趣意書には、こんな言葉がつづられています。
「国民の保健は衛生思想の普及」にかかっており、
“国民の健康が国家安定の基礎”であるという見地からすれば、
これは国家的な工業ということが出来ます。」

設立者たちの想いは、今日に至るまで連綿と受け継がれ、
「医療を通じて社会に貢献する」という
テルモの企業理念に繋がっています。

人々の健康と、それを支える医療現場のために力を尽くし、
社会の安定と発展に寄与すること。それは私たちの不変の使命です。
これからの100年も、テルモのアソシエイト*は、
世界中の患者さんと医療従事者の皆様に
イノベーティブで、価値ある製品やサービスをお届けするために、
そして、より良い社会を実現するために、歩み続けます。

*テルモでは従業員を共に働く仲間という意味を込めて「アソシエイト」と呼んでいます。

企業理念

医療を通じて社会に貢献する

私たちは、医療の分野において価値ある商品とサービスを提供し、医療を支える人・受ける人双方の信頼に応え、社会に貢献します。

コアバリューズ

Respect (尊重) — 他者の尊重

私たちは、アソシエイト、お客様、そしてビジネスパートナーに対して敬意と感謝の気持ちをもって接します。多様な文化や個性を理解し、異なる意見や社会の声にも広く耳を傾け、自らの成長に繋げていきます。

Integrity (誠実) — 企業理念を胸に

私たちは、人々のいのちや健康に関わる企業のアソシエイトとして、常に、誠実に使命感をもって行動します。日々努力し、全てのステークホルダーとの間に、確かな信頼を築いていきます。

Care (ケア) — 患者さんへの想い

私たちは、自らの活動が、患者さんにつながっていることを常に忘れず行動します。医療に携わる人々を深く理解することに努め、患者さんのより良い未来の実現をともに支えていきます。

Quality (品質) — 優れた仕事へのこだわり

私たちは、安全と安心の医療を提供するために、常に現場視点で課題を捉え解決策を見つけ出します。製品品質のみならず、供給やサービスなど、全ての活動におけるクオリティーの向上を徹底的に追求します。

Creativity (創造力) — イノベーションの追求

私たちは、未来に挑戦する風土を大切に、好奇心と情熱をもって取り組みます。医療現場のニーズを的確に捉え、価値ある製品やサービスを最適なタイミングで届けていきます。

自らの存在意義 (Purpose)を再認識し 次の100年の医療に貢献する

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) によりお亡くなりになられた方々に
謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された皆様の一日も早い回復を
お祈り申し上げます。

テルモは、COVID-19の治療の最前線で尽力されている医療従事者の
皆様への支援を継続するとともに、同感染症以外の疾病に対しても、
患者さんが必要とする医療を止めないため、グループで緊密に連携しながら
取り組んでいます。そのような中、私たちは、改めてテルモの企業理念
「医療を通じて社会に貢献する」の真の意味、すなわち患者さんのQOL向上と
医療現場の課題解決に取り組む企業としての存在意義 (Purpose) を
再認識することができました。

現在、世界の至るところでポストコロナの兆しが見えつつありますが、
コロナ禍以前から、医療の世界は待たなしの変革を迫られていました。
今回の世界的危機はその流れをさらに加速させ、医療にパラダイムシフトが
起きることが予想されます。テルモは2021年9月17日に創立100周年を迎えました。
次の100年を見据え、既存の枠組みにとらわれず、新しい医療においても
価値を創出し、医療現場と患者さんに貢献してまいります。

代表取締役会長

三村 孝仁

代表取締役社長 CEO

佐藤 慎次郎

2022年4月1日付で高木 俊明が代表取締役会長に就任し、
三村 孝仁は取締役常勤顧問に就任しています。







いのちに向き合う医療従事者のために。 いのちの謳歌を願うすべての人々のために。

一人ひとりの患者さんに最適な医療を提供し、その人らしい生活を応援したい。

これは、多くの医療従事者の皆様の願いであると同時に、私たちの願いでもあります。

今、医療のニーズは多様化し、人々の健康との向き合い方も大きく変化しています。

テルモは、3つのカンパニーと8つの事業をグローバルに展開し、治療効果の向上や、患者さんの心と身体の負担低減を追求するとともに、医療現場のあらゆる課題の解決に役立つ製品やソリューションをお届けしています。

私たちは、医療の今と未来に寄り添い、社会への貢献を実現し続けます。

テルモは3つのカンパ 医療の現場に価値あるソ

テルモグループは現在、3つのカンパニーとそれに属する8つの事業を展開し、160以上の国や地域で、患者さんと多様な医療現場、製薬企業などに50,000点を超える製品やサービスをお届けしています。患者さんに負担の少ない治療を提供し、より良い治療効果を提供するのはもちろん、医療従事者が安全・安心のもとケアに専念できるようにすることや、未来の医療を生み出す研究の現場を支えることも、テルモの重要な使命です。医療の現場に存在する課題と真正面から向き合いながら、新たな価値創出に取り組みます。



心臓血管カンパニー

血管内治療と心臓外科手術において、 患者さんの負担軽減を追求する

人間の生命活動を支える心臓・肺、そして全身の血管の病気の治療に関わる事業を展開しています。心臓や脳の血管にカテーテルを通して治療を行う血管内治療関連デバイス、心臓外科手術中に心臓・肺の機能を代替することで生命維持を行う人工肺や人工心肺装置、病気で傷んだ血管の代わりとなる人工血管やステントグラフトを提供。各事業に共通して、より良い治療効果の実現、患者さんの身体への負担軽減およびQOL向上を目指しています。

TIS事業 (Terumo Interventional Systems)

ニューロバスキュラー事業 (MicroVention)

カーディオバスキュラー事業 (Terumo Cardiovascular)

血管事業 (Terumo Aortic)

ニーと8つの事業で ソリューションを届けます



**メディカルケアソリューションズ
カンパニー**

患者さんのケアの質向上と
医療の変革に貢献し、医療に関わる
すべての人に「やさしい医療」を提供する

近年、高齢化が進む中で、患者さんの増加に加え、疾病の多重化・慢性化により医療費が増大しています。また、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、感染対策への意識が高まりました。さらには、テクノロジーの進歩による、患者さん一人ひとりの個性に合わせた個別化医療へのニーズも高まっています。このような多様化・複雑化する医療現場の課題やニーズに対し、私たちは、これまで培ってきた強みを生かしたソリューションの提供をさらに充実させることで、患者さんのケアの質向上と医療の変革に貢献し、医療に関わるすべての人に「やさしい医療」を提供します。

ホスピタルケアソリューション事業

ライフケアソリューション事業

ファーマシューティカルソリューション事業

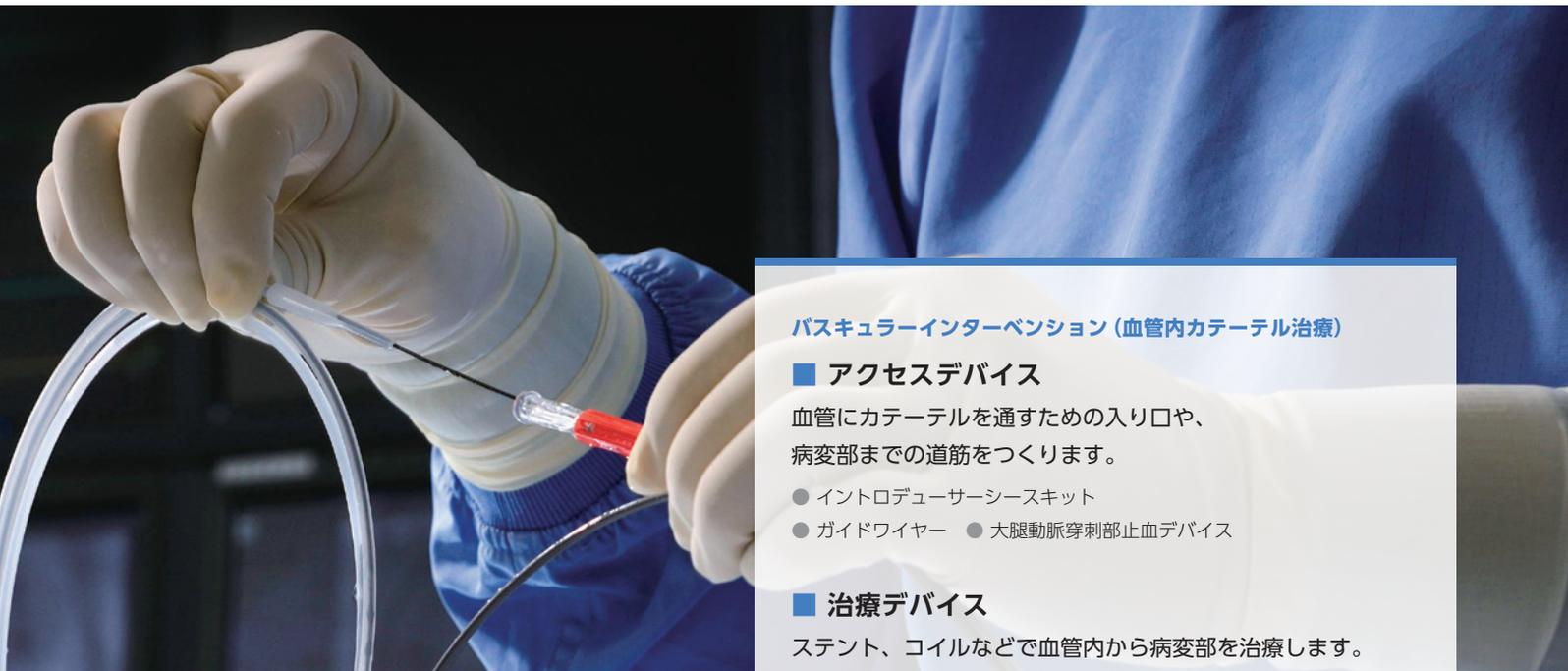


**血液・細胞テクノロジー
カンパニー**

世界の輸血医療を支えるとともに
進化する血液・細胞治療に貢献する

献血で提供された血液は、血液センターで血小板、血漿、赤血球など血液製剤化され、医療機関に供給されます。テルモは、世界中の血液センターと提携し、製剤化に用いる機器や血液バッグを供給し、製剤プロセスの効率化に貢献しています。また、遠心分離技術を活用した血液成分を採取または除去するデバイスを通じ、多様な血液治療のソリューションを展開しています。近年は、進化が著しい細胞治療および遺伝子治療の分野の研究機関や製薬企業に向けて、高品質な細胞治療製品を大規模に製造するための装置やサービスを提供し、新たな治療法の創出を支援しています。

心臓や下肢の血管の病気に対し、カテーテルを用いて治療する「バスキュラーインターベンション（血管内カテーテル治療）」や、血管内の状態を診るための「イメージング（画像診断）」、肝臓がんの化学療法「インターベンショナルオンコロジー」に関する製品を展開。治療効果の向上と、デバイスを扱うドクターが求める操作性・品質を追求するとともに、患者さんの身体にやさしい治療（低侵襲治療）の発展に貢献しています。



バスキュラーインターベンション（血管内カテーテル治療）

■ アクセスデバイス

血管にカテーテルを通すための入り口や、病変部までの道筋をつくります。

- イントロデューサーシースキット
- ガイドワイヤー ● 大腿動脈穿刺部止血デバイス

■ 治療デバイス

ステント、コイルなどで血管内から病変部を治療します。

- 薬剤溶出型冠動脈ステント (DES)
- 末梢血管用ステント ● 血管内塞栓用コイル

■ イメージング（画像診断）

血管内壁の表面や断面を、超音波または光で観察します。

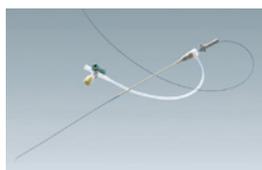
- 血管内超音波診断システム (IVUS)
- 血管内光干渉断層画像診断システム (OFDI)

インターベンショナルオンコロジー（がん治療）

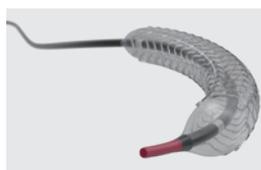
■ IVR 関連デバイス

がん細胞に通じる肝動脈にカテーテルを通して化学療法を行います。

- マイクロバルーンカテーテル ● マイクロカテーテル
- 放射線放出性ビーズ ● 薬剤溶出性ビーズ



イントロデューサーシースキット



薬剤溶出型冠動脈ステント (DES)



血管内超音波診断システム (IVUS)



マイクロバルーンカテーテル

TOPICS

末梢血管治療も、がん化学療法も——進化する手首からのカテーテル治療

手首の血管からカテーテルを挿入して行う手技「TRI (Transradial Intervention)」。テルモは90年代後半から現在に至るまで、TRIで用いるデバイスの開発に注力し、手技の普及を支えてきました。当初心臓の血管の治療を中心に行われてきた TRI は近年、末梢血管（ペリフェラル）や、肝臓がん化学療法（インターベンショナルオンコロジー）領域にも拡大しています。そのような中、テルモは長年培った技術とノウハウを生かし、2019年に手首からの末梢動脈治療用のデバイスシステムを発売しました。現在は米国や日本に続き、世界での使用拡大を目指すとともに、患者さんのさらなる QOL 向上と医療経済性への貢献を目指しています。

脳の血管の詰まりや瘤(脳動脈瘤)の破裂などにより血液の流れが阻害され、脳細胞が障害を受ける病態、いわゆる「脳卒中」に対するカテーテル治療製品を、米国子会社マイクロベンション社との連携で展開しています。脳動脈瘤や脳梗塞に対する治療デバイス、脳動静脈奇形に対応する液体塞栓材など、症例に最適な素材や設計の技術を活かし、革新的なデバイスを創出することで、患者さんの負担が少ない脳血管治療の可能性を広げます。



■ 脳動脈瘤治療用デバイス

脳動脈にできた瘤の破裂を防ぐため、瘤の内部に詰め物をする、瘤の入り口を塞ぐなどにより血流を遮断します。

- 脳動脈瘤塞栓用コイル
- 袋状塞栓デバイス
- 血流改变ステント

■ 血流遮断デバイス

奇形など出血リスクのある脳血管に、バルーンや液状の塞栓材を用いて、血流を遮ります。

- オクリュージョン・バルーンカテーテル
- 液体塞栓材

■ 血栓除去デバイス・頸動脈ステント

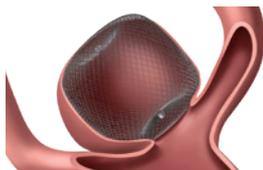
脳血管内の血栓の除去や、血管の詰まりの拡張を行います。

- 血栓吸引カテーテル
- 血栓除去デバイス
- 頸動脈ステント

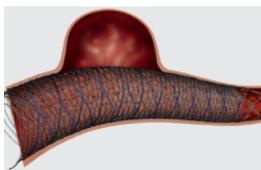
■ アクセスデバイス

脳血管内の病変部までの道筋をつくります。

- マイクロカテーテル
- ガイドワイヤー



袋状塞栓デバイス



血流改变ステント



オクリュージョン・バルーンカテーテル



血栓吸引カテーテル

TOPICS

治療の可能性を広げ、術者の想いに応える技術を追求

X線透視下で数ミリ単位の病変部を治療する脳血管内治療は、病変部の位置や形状によってもその難易度が異なります。例えば、入り口が広い脳動脈瘤が血管の分岐部にできると通常の塞栓コイルでは血流の遮断がしにくい場合があります。近年テルモでは、さまざまな症例に対応して、細かな編み目で瘤の入り口を塞ぐステントや、瘤内で袋状に拡張する形状記憶合金の塞栓デバイスなど、多様なデバイスを開発しています。また、X線画像で見やすい素材や設計を採用するなど、手技を行う医師がより高いパフォーマンスを発揮できる新たな技術を探求し、脳血管内治療を支えています。

心臓外科手術中に停止させた心臓や肺に代わって、血液を体外で循環させる人工心肺装置、血液のガス交換を担う人工肺、緊急症例の患者さんの心肺機能を補助する体外式膜型人工肺(ECMO)、心臓を停止させずに行う外科手術の進行をサポートする医療機器などを開発・販売しています。また、重症心不全患者さんの新たな治療の選択肢として期待される、世界初の再生医療等製品を展開するハートシート事業とも連携し、イノベティブな技術で心臓病患者さんのQOL向上に貢献しています。



カーディオバスキュラー事業 (Terumo Cardiovascular)

■ 人工心肺システム

心臓外科手術の際、患者さんの心臓と肺に代わり、体外循環とガス交換を行います。

- ホローファイバー型人工肺
- 人工心肺装置
- 体外循環用血液パラメータモニターシステム

■ 経皮的心肺補助システム(PCPS)/
体外式膜型人工肺(ECMO)

急性心筋梗塞や心停止など、緊急症例の患者さんの心肺機能を補助します。

- 体外循環装置用遠心ポンプ駆動装置
- 人工心肺用回路システム
- 大腿動静脈カニューレ

■ オフポンプ冠動脈バイパス術システム

心臓を止めずに行う外科手術の進行をサポートします。

ハートシート事業

■ 再生医療等製品

重症心不全の患者さんの大腿部から筋肉組織を採取、組織内に含まれる骨格筋芽細胞を培養してシート状にし、心臓表面に移植して使用します。薬物や外科手術による回復が難しい症例への新たな治療の選択肢を提供します。



ホローファイバー型人工肺



経皮的心肺補助システム(PCPS)/
体外式膜型人工肺(ECMO)



オフポンプ冠動脈バイパス術システム



骨格筋芽細胞シート

TOPICS

ECMOの緊急増産体制を構築し、コロナ禍に対応

新型コロナウイルス感染症に伴う重篤な呼吸不全を発症した患者さんには、体外式膜型人工肺(ECMO)の使用が検討されます。テルモは、コロナ禍におけるECMOへの急激な需要の増加に対応するため、生産拠点であるMEセンター(静岡県)に緊急の増産体制を構築しました。ECMOはシステムを構成する部品点数が多く、構造も複雑なため、通常は増産に時間を要する製品です。このたびはサプライヤーの皆様のご協力もあり、平常時の1年分にあたる数量を数ヶ月で生産することに成功しました。引き続き、治療を必要とする患者さんに安定的に製品をお届けできるよう取り組みます。



ECMOの生産現場

血管事業を担うTerumo Aorticは、胸部および腹部の大動脈瘤や大動脈解離といった大動脈疾患に対する外科手術と血管内治療で用いる人工血管とステントグラフトを中心に、幅広い症例に対応する多様な製品ラインアップを展開。世界90カ国以上で200万人を超える患者さんの治療に貢献しています。また今後はデジタル技術を活用し、一人ひとりの患者さんに最適な製品の提供にも注力し、大動脈治療におけるイノベーションを追求します。



■ 人工血管

外科手術によって病的な血管を置き換える治療や、バイパスを作成する治療に用いられます。

- 胸部用人工血管
- 腹部用人工血管



胸部用人工血管



胸部用オープンステントグラフト
(ハイブリッド型)



胸部用ステントグラフト



腹部用ステントグラフト

■ ステントグラフト

カテーテルによって、血管内の目的部位にバネ付きの人工血管を留置し、動脈瘤が破裂しないようにする治療に用いられます。

- 胸部用ステントグラフト
- 腹部用ステントグラフト

■ オープンステントグラフト

人工血管とステントグラフトを組み合わせた構造により、2段階の手術を一度で実施する治療に用いられます。

- 胸部用オープンステントグラフト (ハイブリッド型)

TOPICS

患者さんに最適な大動脈治療に貢献——Terumo AorticのDX戦略

複雑な大動脈疾患治療においては、患者さんの大動脈の形状や病態に合わせて人工血管やステントグラフトなどから最適な植込みデバイスを選択し、治療が行われます。Terumo Aorticは、大動脈治療向けに広範な製品ラインアップを展開するとともに、治療を進化させるためのデジタルソリューションの開発にも注力しています。2021年に欧州で立ち上げたデジタルプラットフォームは、標準的な仕様の製品が適さない患者さん向けに個別にデザインされた製品で行われる治療のマネジメントに貢献するものです。Terumo Aorticは、今後もDX戦略を強化し、大動脈治療に最適なソリューションの提供に取り組んでいきます。

ホスピタルケアソリューション事業は、医療安全、院内感染対策、医療費の抑制といった医療現場の多くのニーズに対して、患者さんや医療従事者の負担軽減、使い勝手向上につながる製品開発、医療機器使用における運用サポート、医療従事者へのトレーニングプログラムなどさまざまな提案を行っています。単なる製品提供では解決し難い課題に対するソリューション提案を通じ、「治療の安全性向上」「業務の効率化」「患者さんのQOL向上」に貢献します。



■ 高機能薬剤投与システム関連製品

高機能輸液システムの普及とデジタルヘルスとの融合を進め、薬剤投与の効率化と標準化、安全性の向上を図ります。

- システム連携機能搭載輸液ポンプ・シリンジポンプ
- ポンプモニタリングシステム
- 未開投与防止機構付輸液バッグ
- 閉鎖式抗がん剤投与システム (CSTD)
- 安全機構付静脈留置針 ● クローズド輸液システム

■ 腹膜透析関連製品

日常生活への負担が少ない透析療法とされる腹膜透析 (PD) において、患者さんが安心して治療を行うための製品を展開しています。

- 中性化腹膜透析液 ● 手動接続の腹膜透析液交換システム
- 無菌接合装置 ● 自動腹膜透析装置

■ 感染対策・環境整備関連製品

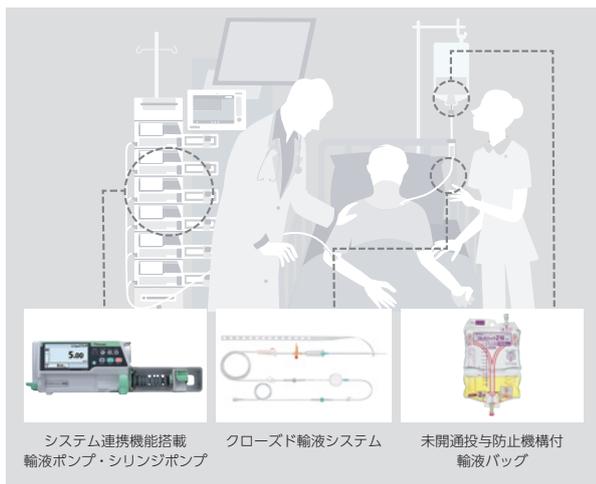
医療従事者の手指消毒などの感染対策や手術室や病室などの環境整備に貢献します。

- 手指消毒剤 ● 紫外線照射ロボット

■ 周術期・がん領域製品

疼痛管理や合併症など、周術期・がん領域の課題解決に寄与します。

- スプレー式癒着防止材 ● 鎮痛薬 ● 濃厚流動食 ● 超高濃度栄養食



TOPICS

多様な製品ラインアップや情報発信により院内の感染対策や環境整備に貢献

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、感染対策は医療の現場、そして私たちの日常生活において、その重要性が再認識されました。中でも、医療機関では独自の感染対策ルールの徹底や製品の適切な運用方法など、多岐にわたる課題を抱えています。そこで、テルモはメディカルケアソリューションズカンパニーを中心として院内での感染対策や環境整備における課題の抽出から運用、フォローに至る総合的な提案を実施。紫外線照射ロボットの運用プロトコルの提案やトレーニング、皮膚赤外線体温計による発熱スクリーニング等を通じて、医療現場の課題解決を目指しています。

感染対策専用サイト
 (医療関係の皆様向け情報)



紫外線照射
 ロボット



手指消毒剤



感染対策キャラクター
 クリンちゃん

ライフケアソリューション事業は、糖尿病をはじめとした慢性疾患を抱えながら生活している一人ひとりの患者さんにとって、個別に最適化された医療を実現するソリューションを提供しています。健康を願うすべての人に寄り添った新たな価値創出を通じて、患者さんの予後改善、重症化予防、そしてQOLの向上に貢献します。



パッチ式インスリンポンプ



持続血糖測定システム



通信機能付き測定機器シリーズ



電子体温計／皮膚赤外線体温計

■ 糖尿病治療関連製品

日常的な血糖管理やインスリン投与療法において使い勝手の向上や痛みの低減などを追求した製品を展開し、患者さんのQOL向上に貢献します。

- 血糖自己測定器
- 持続血糖測定システム
- パッチ式インスリンポンプ
- ペン型注入器用ディスプレイ注射針

■ バイタルサイン管理関連製品

通信機能を搭載し、患者さんのバイタルサインをタイムリーかつ効率的、正確に管理します。

- 血糖測定器
- 電子体温計
- 電子血圧計
- パルスオキシメータ

TOPICS

新たなテクノロジーで、糖尿病治療患者さんの笑顔を支える

テルモは1982年から約40年にわたり糖尿病領域で革新的な製品を提供し続けており、2018年に日本で唯一のパッチ式インスリンポンプを開発、2019年に米デクスコム社の持続血糖測定器の日本での販売を開始しました。そして2020年、仏Diabeloop社とインスリン自動投与制御システム(AIDシステム)の共同開発契約を締結しました。持続血糖測定器でリアルタイムに測定した皮下のグルコース濃度に連動して、患者さんの状態に合わせたインスリン量がインスリンポンプから持続的に投与されるこのAIDシステムを通じて、糖尿病患者さんへのさらなる貢献を目指します。



インスリン自動投与制御システムのイメージ

プレフィルド(薬剤充填済み)製品で培った独自の技術を生かし、製薬企業に新たな薬剤投与デバイスを提案しています。薬剤に適した素材技術を組み合わせたデバイスの開発や、高度な製造技術を活かした医薬品と医療機器のコンビネーションプロダクトの設計・製造を行っています。治験薬の製造から商用製品の生産に至るまで、製薬企業とのアライアンスを通じて、トータルソリューションを実現するとともに、患者さんにとって必要な薬剤を、安全かつ確実にお届けしています。



■ 医薬品開発製造パートナーリング

製薬企業とのパートナーシップを通じて、薬剤充填デバイスの設計から商用製造まで一貫してサポートします。

- 自己投与プレフィルドシリンジ
- セーフティ機能付きプレフィルドシリンジ

■ 容器提供

バイオ医薬品やワクチンなどの薬剤に最適な素材をマッチングし、ユーザビリティの高いデバイスを提供します。

- 薬剤充填用シリンジ
- 皮内投与型デバイス

■ 薬剤キット用デバイス提供

製薬企業が販売する医薬品に同梱するための投与用デバイスを提供し、医療現場の安全性と効率性に貢献します。

- 薬剤キット用注射針



自己投与プレフィルドシリンジ
セーフティ機能付きプレフィルドシリンジ



薬剤充填用シリンジ



薬剤キット用注射針



皮内投与型デバイス

TOPICS

生産能力増強でグローバル展開に対応

テルモの医薬品と医療機器を組み合わせたドラッグ&デバイス製品は、国内子会社のテルモ山口D&D株式会社の本社工場や富士宮医薬品工場、甲府医薬品工場がその生産を担っています。薬剤充填用シリンジの素材技術や無菌充填技術を有するテルモ山口D&D株式会社の本社工場は、欧州のEMAや米国のFDA、日本のPMDAなど各地の規制当局から薬剤充填済みシリンジの製造に関する認定を取得しています。欧州で販売中の自己免疫疾患に対するバイオシミラー(バイオ後続品)など医薬品と医療機器を組み合わせたコンビネーションプロダクトを生産しています。現在、2016年の稼働時と比べて3.5倍の生産能力を見込む増設が進められ、グローバル規模で事業の成長をけん引する重要な生産拠点として期待されています。

血液・細胞テクノロジー カンパニー

患者さんのいのちとより良い生活のために
血液と細胞治療の可能性を追求します

血液や細胞は、私たちの生命維持に不可欠であると同時に、がんや難病とされる病気の治療をはじめ、さまざまな治療への可能性を秘めています。米国子会社テルモ BCT 社が担う血液・細胞テクノロジーカンパニーは、献血によりドナーから提供された血液を安全かつ効率的に血液製剤化する装置を提供するとともに、細胞治療やアフェレシス治療のために血液中の特定の成分を分離・採取するための装置、細胞治療薬の製造プロセスを自動化し、効率化に貢献する装置を展開し、製薬企業や研究機関を支援しています。患者さんに新たな治療の選択肢を提供するため、独自のテクノロジーをさらに進化させていきます。



■ 血液センター関連製品

血液成分の採取と製剤化のプロセスにおいて、品質と効率の向上を実現します。

- 成分採血システム
- 血液自動製剤システム
- 白血球除去フィルター付き血液バッグ
- 病原体低減化システム

■ アフェレシス治療・細胞採取関連製品

血液や細胞の病気の治療に関わる、血液成分を採取、または除去します。

- 遠心型血液成分分離装置

■ 細胞処理関連製品

治療、研究などに必要な細胞を効率的に処理し、細胞治療の開発・商業化を支援します。

- 細胞増殖システム
- 細胞製剤用充填・仕上げシステム

■ 自家生物製剤関連の製品

患者さん自身の血漿や骨髄液、脂肪組織などを分離、濃縮、調製します。

- 自家細胞分離・調製システム



白血球除去フィルター付き血液バッグ



遠心型血液成分分離装置



細胞増殖システム



自家細胞分離・調製システム

TOPICS

原料血漿採取における協業を開始

2021年4月、テルモ BCT 社と米国の CSL Plasma 社が原料血漿採取における協業を開始しました。遺伝子や免疫に関わる病気により重篤な症状に苦しむ多くの患者さんの治療のために「血漿分画製剤」の使用が増加しています。血漿には、100種を超えるたんぱく質が含まれますが、特に治療に必要なたんぱく質を物理化学的に成分ごとに分け、精製したものは、血漿分画製剤と呼ばれています。現在、原料血漿の採取装置の臨床試験が行われ、米国食品医薬品局 (FDA) 認証取得に向けて準備を進めています。今後も血液・細胞治療における先進技術に注力し、より良い医療の実現を目指します。

At a Glance

テルモグループの現在 2020年度(2021年3月期)

業績(連結)

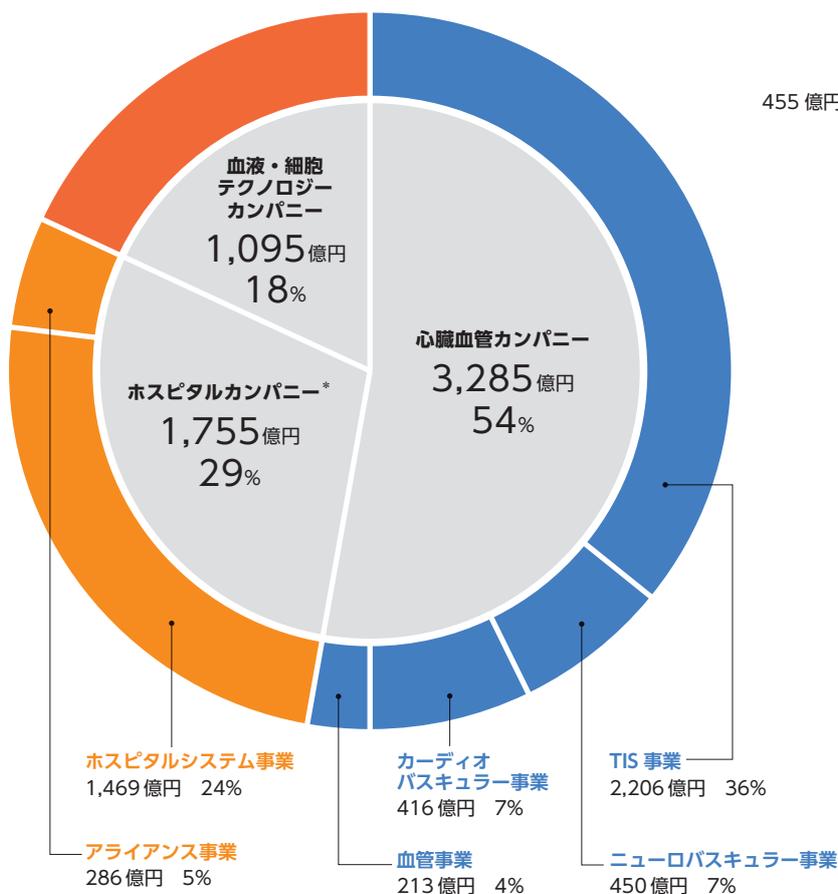
売上収益

6,138 億円

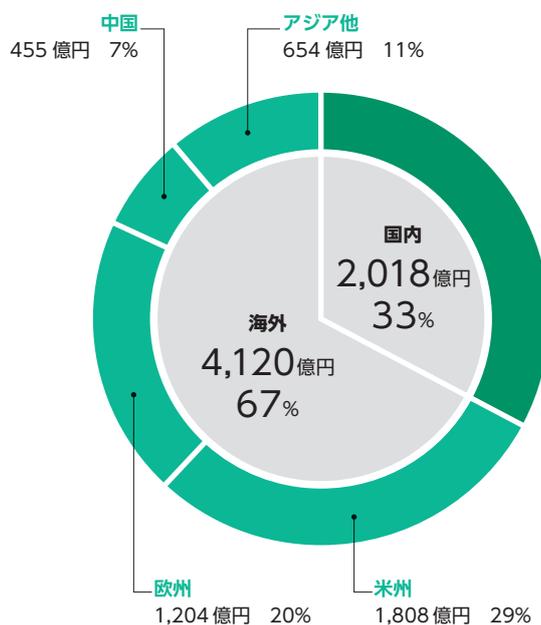
調整後営業利益

1,159 億円

事業別売上収益



地域別売上収益



* 2022年4月付の組織変更に伴い、ホスピタルカンパニーはメディカルケアンソリューションズカンパニーに、ホスピタルシステム事業はホスピタルケアンソリューション事業とライフケアンソリューション事業に、また、アライアンス事業はファーマシューティカルソリューション事業に名称変更しています。

構成比率は小数点以下を四捨五入しており、合計が100%とならない場合があります。

事業 / 組織の規模

販売国・地域数

160 以上



生産拠点数

日本 8 拠点

海外 24 拠点



連結子会社数

104 社



製品品種数

50,000 点



研究開発拠点

日本 6 拠点

海外 17 拠点



人財

アソシエイト(社員)数

テルモグループ



26,482名

テルモ株式会社



5,247名

女性アソシエイト比率*1



17.4%

女性管理職人数 / 比率*2



69名 / 8.1%

男性育児休業取得人数 / 取得率*3



89名 / 63.1%

*1、*2、*3 対象：テルモ株式会社

主な選定・認定



FTSE4Good



FTSE Blossom Japan

テルモは、FTSE Russellが作成する ESG 投資指数 [FTSE4Good Index Series] ならびに [FTSE Blossom Japan Index] の構成銘柄に選定されています。(2022年3月末時点)



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

テルモグループの2030年度の温室効果ガス排出量削減目標は、SBTイニシアチブより、「2℃を十分に下回る水準」として認定を取得しています。*1

2022 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

ESG(環境、社会、ガバナンス)投資の主要指数である「MSCI ジャパン ESG セレクト・リーダーズ指数*2」の構成銘柄に初めて選定されました。



2021
健康経営銘柄
Health and Productivity

経済産業省と東京証券取引所が選ぶ「健康経営銘柄」に、初回から7年連続(2015年～2021年)で選定されました。



テルモは、「ECMOの研究開発と実用化および普及」において、NPO法人日本ECMOnet理事長の竹田晋浩先生とともに、「第5回日本医療研究開発大賞 内閣総理大臣賞」を受賞しました。

*1 2021年11月に目標を「1.5℃水準」に引き上げ、「1.5℃水準」での認定を申請中。

*2 テルモのMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社によるテルモへの後援、宣伝、販売促進を意味するものではありません。MSCIインデックスは、MSCIの独占的財産であり、その名称とロゴは、MSCIおよびその関係会社が所有する商標またはサービスマークです。

会社概要

商号	テルモ株式会社
東京オフィス	〒163-1450 東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー
幡ヶ谷オフィス(本社)	〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 2-44-1
設立	1921年9月17日
資本金	387億円
代表	代表取締役会長 高木 俊明 代表取締役社長 CEO 佐藤 慎次郎
事業内容	医療機器・医薬品の製造販売
株式	東証プライム市場上場



www.terumo.co.jp



@terumo_jp

Our Activities

テルモグループの活動 2020年度(2021年3月期)

医療課題の解決

世界各国で医療従事者向けトレーニングを提供できる体制の構築を推進

医療機器は正しく使用されることで、初めてその効果を十分に発揮します。しかし、国や地域によっては医療トレーニングを受ける機会が少なく、十分な知識・技能や経験を持った医師や技士の不足が課題となっていることがあります。そこで、テルモは世界各地でより多くの患者さんが必要な治療を受けられるよう、世界各地で医療従事者向けトレーニングを提供できる体制の構築に取り組んでいます。日本では2002年に、手術室やカテーテル室など病院と同等の医療環境を有する「テルモメディカルプラネックス」を開設し、国内外の医師や看護師、臨床工学技士などにトレーニングの機会を提供してきました。今後も世界中で、現地の医療ニーズに応じたプログラムを提供し続けます。



トレーニング普及を担うアソシエイト

多様な人材の活躍

女性の活躍推進

テルモでは、経営トップがダイバーシティ経営の実現の一つとして、「女性活躍推進」にコミットすることを宣言し、その取り組みを強化しています。日本では、管理職に占める女性比率を、2022年3月末に8%以上にするという目標を掲げ、女性の能力を最大限に発揮できる環境づくりを推進し、管理職としての意識やスキルを高め、多様な視点で意思決定ができる人材が活躍することを目指しています。グループ全体でも、女性アソシエイトのネットワーク活動など各地の特性に応じたダイバーシティ&インクルージョンに取り組んでいます。



社内イベントの様子(テルモタイランド社)



ロゴマークのテーマは「オーバーラップ」。さまざまな色合いが重なり合った大小の文字は、多様な個性を持ったアソシエイトが輝き、異なる価値を認め合いながらいきいきと活躍する様子を表現。

健康経営の推進

医療に貢献する企業の一員として、アソシエイトの健康を守るとともに、一人ひとりが高い健康意識を持つよう、経営トップがコミットして健康経営*を推進しています。①喫煙率・メタボ率の低減②がんの早期発見・早期治療・職場復帰③ウィメンズヘルス④自発的な取り組みの奨励を重点テーマとし、組織横断チームで活動事例や課題を共有しながら取り組みレベルの標準化を図っています。健康増進の取り組みはグローバルでも推進。各地の施策を互いに学び合い、共に進めることで、一体感を持って行動しています。

*「健康経営」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。テルモは、NPO法人健康経営研究会の賛助会員として趣旨に賛同しています。



事業所敷地内のスタジオでのエクササイズの様子(テルモBCT社)



工場内での健康診断の様子(テルモベトナム社)

環境への取り組み

富士山麓での森林保全の取り組み

静岡県富士宮市に2つの工場を有し、富士山麓から湧き出る地下水を利用して医療機器や医薬品などを生産しているテルモは、富士山がもたらす自然の恵みを受ける企業として、「テルモ富士山森づくり」を2003年度から毎年行っています。台風による倒木などで被害を受けた森林に郷土樹種を植林し、地下水の源となる自然林へと再生させることを目指しています。2011年度からは、静岡県、森林所有者、テルモの三者で「しずおか未来の森サポーター協定」を結び、富士宮市麓地区の「テルモ恵みの森」での植林や森林整備を実施しています。



「テルモ富士山森づくり」活動の様子

地域社会への貢献

新型コロナウイルス感染症対策に 合計400万米ドル以上の支援を実施

テルモは、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染防止と治療への積極的貢献を目指し、体温計、体外式膜型人工肺(ECMO)などの自社製品の寄贈や義援金寄付を行ってきました。これらに加え、COVID-19の研究、感染拡大防止、治療、医療従事者への物資や情報の提供などの活動を行う「WHOのための新型コロナウイルス感染症連帯対応基金」へも寄付を実施。こうした寄付・寄贈の金額は、合計400万米ドル以上に及びます。

テルモは、長年医療現場の課題解決に取り組んできた企業として、引き続き世界の健康と安全に貢献していきます。



中国・武漢市の病院に体温計、血圧計、体外式膜型人工肺(ECMO)などを寄贈



インドで先天性心疾患の 子どもたちの早期診断を支援

インドでは新生児1,000人に対し約9人が先天性心疾患(CHD)を抱えていると言われ、いかに早期の検査と診断を行うかが、鍵となっています。テルモグループの子会社で、心臓外科手術に用いる人工肺などを販売しているテルモインド社では、現地のNGO法人と協力し、子どもたちのCHDを検査で発見するスクリーニングキャンプと、外科的治療を必要とする子どもたちのサポートを実施。2019年度は合計48回のキャンプで7,152名の検査をサポートし、93名がCHDと診断され、治療を受けることができました。



スクリーニングキャンプの様子

テルモ100年の歩み

テルモは創業以来100年にわたり常に前進を続け、患者さんと医療現場の近くで、新しい価値を生み出しています。

患者さんにやさしい



患者さんの 身体的負担の軽減

1982年
世界初多孔質ホローファイバー型人工肺を発売

1985年
血管造影用カテーテルシステムを発売し、
血管内カテーテル診断・治療分野に進出



国民衛生の基盤づくりを支援



北里柴三郎博士と設立趣意書
写真提供：学校法人北里研究所

1921

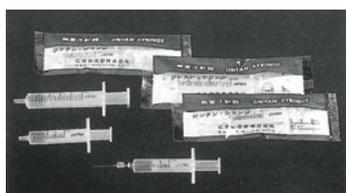
1960

1970

1980

1990

医療現場の感染対策



1963年
日本初の単回使用の注射筒を発売

1969年
日本初の血液バッグを発売

1973年
血液バッグ開発で蓄積した技術をもとに、
日本初のソフトバッグ入り輸液剤を発売



環境に配慮した製品づくり



1983年
病院用予測式電子体温計を発売

1985年
水銀体温計の生産を終了

医療現場に安全・



1999年
プレフィルドシリンジ
(薬剤充填済み注射器)を発売

テルモグループの歩み

■ **1921年**
北里柴三郎博士をはじめとする医師らが
発起人となり、良質な体温計の国産化を目指して
赤線検温器株式会社を設立

■ **1936年**
仁丹体温計株式会社に商号を変更

■ **1971年**
米国と欧州(ベルギー)に現地法人を設立

■ **1974年**
テルモ株式会社に商号を変更

■ **1989年**
研究開発施設「湘南センター」を開設

新たな治療の可能性を提供

治療の追求

1988年
腹膜透析システムを発売

1993年
血糖測定システムを発売

2005年
世界で最も細いインスリン等投与用注射針を発売

2006年
脳血管内塞栓用コイルを発売

2008年
薬剤溶出型冠動脈ステントを欧州で発売

2018年
日本初のパッチ式インスリンポンプを発売



2012年
オープンステントグラフトを欧州で発売

2016年
世界初の重症心不全治療用の再生医療等製品として、ヒト(自己)骨格筋由来細胞シートを発売



2016年
世界初の袋状塞栓デバイスを脳動脈瘤治療ラインアップに追加



2019年
充填・仕上げシステムを発売し細胞治療分野を強化

2020年
テルモBCT社が新たに「血液・細胞テクノロジーカンパニー」として、細胞治療分野を強化



2000

2010

2021

次の100年へ

安心を提供

2000年
フローズド輸液システムを発売

2012年
未開通投与防止機構付輸液バッグを展開



治療技術の発展に貢献



1990年代半ば～
TRI(手首の動脈を介したカテーテル治療)を支援

2002年
「医療技術の創造と普及」を目的とする施設として、テルモメディカルプラネックスを建設

安全で効率的な医療のプラットフォームを提供



2012年
院内ITと連携可能な輸液投与システムを発売

2013年
通信機能付き測定機器シリーズを発売



■ **1999年**
米国3M社から人工心肺事業を譲受し、テルモカーディオバスキュラーシステムズ社を設立

■ **2002年**
人工血管の製造販売会社・英国バスクテック社がテルモグループに加入

■ **2006年**
脳血管内治療デバイスの製造販売会社・米国マイクロベンション社がテルモグループに加入

■ **2011年**
血液・細胞テクノロジー分野の世界的企業・米国カリディアンBCT社(現テルモBCT社)がテルモグループに加入

■ **2017年**
ステントグラフトの製造販売会社・米国ボルトンメディカル社がテルモグループに加入

■ **2019年**
企業理念体系を整備全アソシエイト共通の価値観「コアバリューズ」を新設

■ **2021年**
創立100周年



テルモ株式会社

東京オフィス

〒163-1450 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー

www.terumo.co.jp

© テルモ株式会社 2022年4月